

第2学年 社会科（地理）学習指導案

1. 単元名

九州地方

2. 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領社会・地理的分野の目標（2）「日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとかかわりでもとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどに関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる。」ことを目指し、内容（2）のウ「日本の諸地域」について、（エ）「環境問題や環境保全を中核とした考察」という観点で構成したものである。すなわち、本単元は中核的事象を「環境問題・環境保全」に定めた動態地誌的方法による日本地誌学習を展開する。なお、地誌学習に関して中学校においては世界、日本、身近な地域が取り上げられ、国土認識を育成することが目標となっている。また、小学校においても、第3学年での地域学習、第4学年での県規模の地域学習などに取り組んでいるため、生徒は社会科学習の初期段階から地誌学習に触れている。従って、地域的特色を探究する地誌学習は、系統学習の観点から鑑みると生徒にとっては学習価値が極めて高く、また有意義な学習である。

九州地方は北海道、本州、四国とともに日本列島を構成する主要四島の一つである。本地方は、沖縄県を含めて8県で構成され、総人口は1450万人ほどである。気候は年間を通して温暖な地域ではあるものの鹿児島県奄美地方以南の地域と種子島、屋久島以北の地域では大きく異なっている。地域区分としては、北部九州、南九州、中九州（北部九州と南九州の中間地域）、東西の九州に分けられるとされている。なお、九州地方は南北に長い地形であることから、本単元では北部九州、中九州、南九州という三つの地域に分けることとする。

九州には、中央部に九州山地が形成され、その中核とも言うべき阿蘇山は世界最大級のカルデラをもつことで有名である。他の山地としては、北部九州に横たわる筑紫山地が存在し、周囲には多くの炭田があったことで知られている。一方、平地は北部九州に稲作が盛んな筑紫平野、中九州には日本一のい草の生産量を誇る熊本平野が、南九州には促成栽培の代名詞ともいべき宮崎平野と畑作、畜産が盛んなシラス台地がそれぞれ形成されている。第二次産業においては、北九州工業地帯（地域）を中心として、三菱重工業を代表とする造船業やブリヂストンをはじめとする化学工業が盛んである。また、シリコンアイランドと言われているようにICなどの半導体関連工場が多く存立し、IT産業の発展の一翼を担っている。ただ、現在の北九州工業地帯（地域）は、全国の工業地域における工業出荷額は最も低いことは事実である。しかし、歴史的にみて「鉄鋼の八幡製鉄所」、「石炭の三池炭鉱」のように、九州が日本の近代化に大きく貢献したり、高度経済成長を促す役割を果たしたりしてきたことは多くの人が認める事実であろう。ただ、日本の経済発展の他方、高度経済成長期に入る前ころから熊本県南西部の水俣湾沿岸で発生した有機水銀中毒症、いわゆる水俣病の発生という負の側面があることもまた事実である。いずれにしても端島、通称「軍艦島」をはじめとして「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産への登録に向けた動きで沸く九州地方。自然を生かした観光地だけでなく、世界遺産に登録されることになれば九州地方の諸地域における活性化が期待され、今後も大きな変化を遂げることになるであろう。

このように、現在注目を集める九州地方を「環境」という中核的テーマで本単元を構成する一方で、九州地方の地域的特色を多面的・多角的な視点でもとらえた。また、「持続可能な地域社会

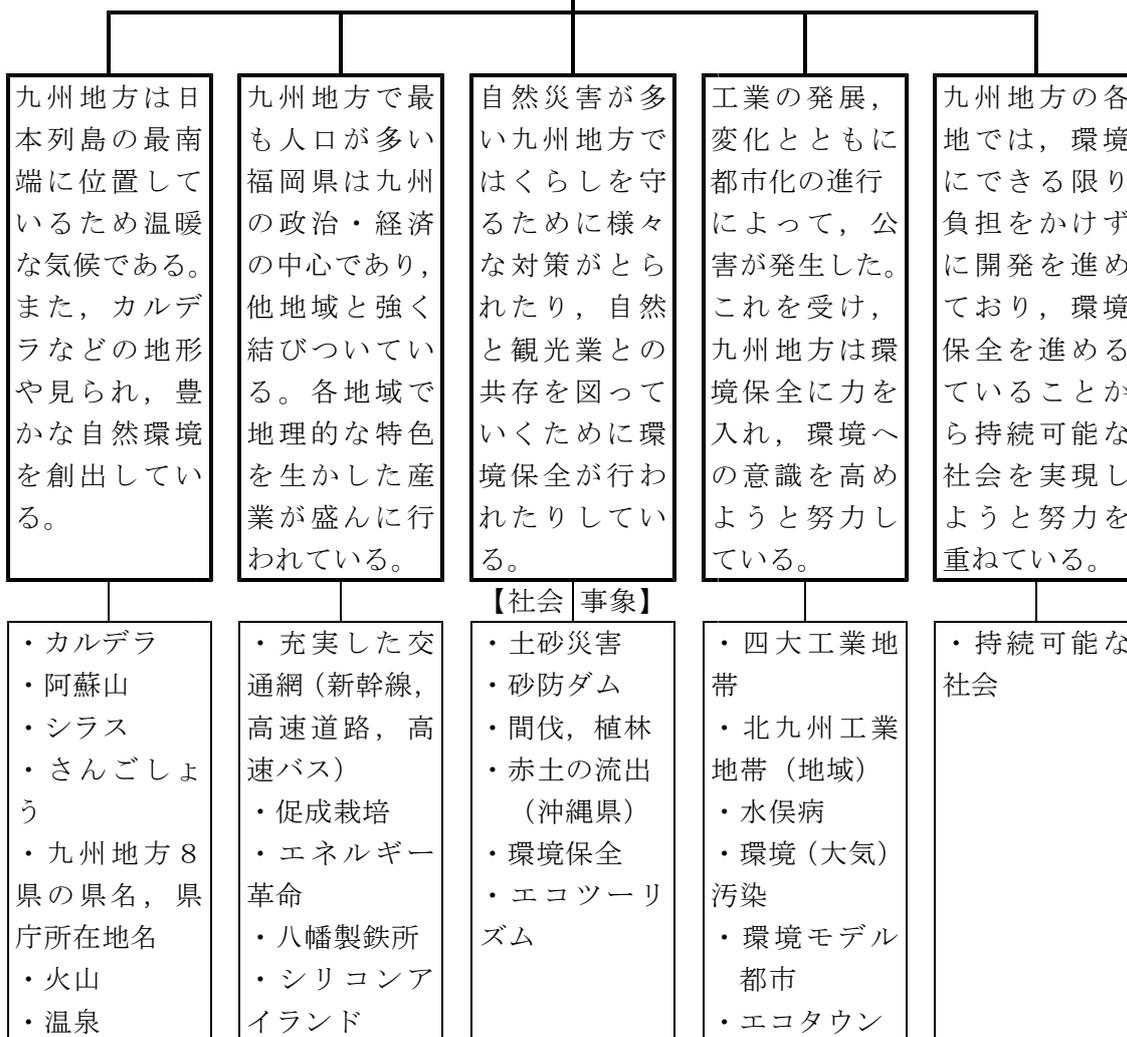
をどのように構築していくべきか」という社会参画の視点を含めて本単元をとらえた。

(2) 単元の構造図

【中心概念】

九州地方は、豊かな自然を生かした観光業や各地域の地理的条件をふまえた第一次産業などの各産業が活発に行われている。ただ、工業化の進行と相まって都市化していく過程で、これまでに公害や災害などが起きてきた。そのため、地域における環境の負荷を最小限にとどめ、環境を保全する取組をしていくことによって持続可能な地域社会を構築していくことが大切である。

【基礎的 事項】



(3) 実態調査・考察

※省略

(4) 指導観

本単元は以下の3点を柱として授業を展開したいと考える。

- ①「習得・活用・探究」のうち、「習得」を大切にする指導
- ②「課題解決学習」・「学び合い学習」の展開
- ③道徳との関連を意識した指導目標・評価規準の設定と指導

①「習得・活用・探究」のうち、「習得」を大切にする指導

※省略

②「課題解決学習」・「学び合い学習」の展開

「学ぶ楽しさ（楽しさ）」を展開するための学習過程・学習形態の工夫として、第一に「課題解決学習」を取り入れる。「単元を貫く学習課題」を設定し、課題解決学習における学習過程（「導入」、「展開」、「まとめ」）を単元全体でも構成する学習である。本来はこれを取り入れたところだが、先にも述べたとおり、習得の時間を確実にする必要があることから、本単元では1時間単位当たりでの課題解決学習とする。第二に「学び合い学習」である。生徒一人一人が学習の主体となる機会を創出し、学習者同士の学びを交流させる学習を行う。さらに学習者同士の交流から得られた「学び」を全体の場面で発表したり、自分の考えを論述したりする。言語活動の充実を図るといった観点から、話し合ったり学び合ったりすることに肯定的な生徒が比較的多いという実態から、毎時間に学び合い学習を設定する。

③道徳との関連を意識した指導目標・評価規準の設定と指導

道徳教育は「道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの」であり、各教科・領域と関連をもたせなければならない。そこで、本単元では指導目標、評価規準のそれぞれに道徳との関連を明確に示すことにする。また、本単元は「郷土愛」と「よりよい社会の実現」という中学校道徳の内容項目との関連があり、それらを強く意識して指導目標と評価規準を設定する。

これは、中学校社会科の目標にある「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深めること」は、学習指導要領解説道徳編で「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛することにつながるもの」と明示しているためである。また、「道徳教育の充実」を「学校教育指導の指針」及び「〇〇の教育（後期教育振興ビジョン）」にも推進施策として示されているためでもある。

以上の三つの柱をもって、研究主題の具現化に迫っていきたいと考える。

3. 単元の指導目標

[◇：道徳との関連]

(1) 社会的事象への関心・意欲・態度

九州地方の環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方を基に、九州地方の地域的特色や環境問題、環境保全に対する関心を持ち、それを意欲的に追究し、捉えようとすることができる。

◇項目4 - (8)「郷土愛」

(2) 社会的な思考・判断・表現

九州地方の地域的特色を環境問題や環境保全を中核とした考察を基に、多面的・多角的に考察し、それを発表やワークシートへの記入等を通して自分の言葉で表現することができる。

(3) 資料活用の技能

九州地方の地域的特色に関する資料から、有用な情報を適切に選択することができる。

(4) 社会的事象についての知識・理解

九州地方の地域的特色を捉えたり、持続可能な地域社会を構築するために必要な知識や考え方を身に付けたりすることができる。◇項目4 - (2)「公德心，社会連帯-よりよい社会の実現-」

4. 単元の評価規準

[◇：道徳との関連]

(1) 社会的事象への関心・意欲・態度	(2) 社会的な思考・判断・表現	(3) 資料活用の技能	(4) 社会的事象についての知識・理解
ア九州地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。 イ環境問題や環境保全	ア九州地方の地域的特色を多面的・多角的に考察し、わかったことや気づいたことを適切に表現している。	ア九州地方の地域的特色に関する資料から、環境問題や環境保全に関わる有用な情報を適切に選択している。	ア九州地方の自然環境や産業などの特色を理解しようとしている。 イ九州地方において持続可能な地域社会を構

に対する取組や持続可能な地域社会の構築に対して関心をもっている。 <input type="checkbox"/> ・ <input type="checkbox"/> : ◇項目 4 - (8) 「郷土愛」	<input checked="" type="checkbox"/> 九州地方における環境問題や環境保全について産業や人々の生活等と関連付けて考察している。	築するための知識や考え方を身に付けている。 <input checked="" type="checkbox"/> : ◇項目 4 - (2) 公德心, 社会連帯 -よりよい社会の実現-
---	---	---

5. 単元の指導計画（5時間）

[◇：道徳との関連]

時配	題材名	学習内容（●）・指導目標（□）	評価規準
1	九州地方の自然環境	●九州地方の自然環境の特色 <input type="checkbox"/> 九州地方の自然環境の特色に関心を高め、意欲的に追究しようとする事ができる。 <input type="checkbox"/> 九州地方の自然環境の特色を理解することができる。	(1) - <input type="checkbox"/> ア (4) - <input type="checkbox"/> イ ◇項目 4 - (2) 4 - (8)
1	九州地方の人々の営み	●九州地方の産業と人口分布 <input type="checkbox"/> 九州地方の地域的特色を多面的・多角的に考察し、わかったことや気づいたことを適切に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 九州地方の産業の特色を理解することができる。	(2) - <input type="checkbox"/> ア (4) - <input type="checkbox"/> ア
1	九州地方の多様な環境保全の取組と災害対策	●九州地方における災害被害抑制策と自然環境の保全の取組 <input type="checkbox"/> 九州地方環境保全に対する取組に関心をもとうとすることができる。 <input type="checkbox"/> 九州地方における環境問題や環境保全について産業や人々の生活等と関連付けて考察することができる。	(1) - <input type="checkbox"/> イ (2) - <input type="checkbox"/> イ ◇項目 4 - (8)
1 本時	九州地方における工業発展と環境問題	●北九州地域、水俣地域の工業発展と環境問題 <input type="checkbox"/> 九州地方における環境問題や環境保全に対する取組に対して関心をもとうとすることができる。 <input type="checkbox"/> 九州地方における環境問題や環境保全について産業や人々の生活等と関連付けて考察することができる。	(1) - <input type="checkbox"/> イ (2) - <input type="checkbox"/> イ
1	九州地方の特色・持続可能な地域社会	●九州地方の地域的特色・持続可能な地域社会の構築に向けて <input type="checkbox"/> 九州地方の地域的特色に関する資料から、環境問題や環境保全に関わる有用な情報を適切に選択することができる。 <input type="checkbox"/> 九州地方において持続可能な地域社会を構築するための知識や考え方を身に付ける。	(3) - <input type="checkbox"/> ア (4) - <input type="checkbox"/> イ ◇項目 4 - (2)

6. 本時の指導（4／5）

(1) 題材名「九州地方における工業発展と環境問題」

(2) 指導目標

□九州地方における環境問題や環境保全に対する取組に対して関心をもとうとすることができる。 [(1) 社会的事象への関心・意欲・態度

□九州地方における環境問題や環境保全について、産業や人々の生活等と関連付けて考察することができる。 [(2) 社会的な思考・判断・表現

(3) 本時の展開

学習過程	学習内容・活動 〔学習内容：■ 学習活動：□〕	時配 (分)	指導上の留意点 〔支援：▽ 指導：▲ 評価：●〕	資料
導入	<p>コの字隊形</p> <p>■北九州市の過去と現在の様子</p> <p>□北九州市（洞海湾，市の上空）の過去と現在の写真を見て，わかったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の色が黄色。 ・工場からの煙が激しくて暗い。 など <p>□現在は環境が改善されている。</p> <p>■水俣病について</p> <p>□水俣病に関する資料を読み，中毒症であることや患者が差別を受けてきたことなどを理解する。</p> <p>■「日本の環境首都」になった水俣市</p> <p>□日本の環境首都の認定証をみて，水俣市の環境が改善されたことをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題をつかむ。 	10	<p>▽写真を全員がしっかり見られるようにする。自由につぶやける雰囲気をつくる。</p> <p>▲▽「環境首都」の意味を生徒に問い，その言葉はどういうことを表すのかを全体で確認し，共有する。</p>	<p>九州地方の掛け図</p> <p>北九州市の過去と現在の写真</p> <p>プリント「水俣病のまとめ」</p> <p>プリント「水俣市のあゆみ」</p> <p>ワークシート</p>
展開	<p>【学習課題】 水俣市を例に環境汚染が進んだ背景と環境が改善された要因を考えよう。</p>			
	<p>一斉講義式隊形</p> <p>■環境汚染が進んだ背景と環境が改善された要因（予想）</p> <p>□背景と要因をそれぞれ個人で考える。（予想を立てる。）</p> <p>4人（5人）組・田の字隊形</p> <p>□グループで背景と理由をそれぞれまとめ，ホワイトボードに書く。</p> <p>□各グループからそれぞれ発表し，全体で共有化を図る。</p> <p>□教師の説明を聞き，教科書や資料集などでグループの発表内容について確認する。</p>	5	<p>▽机間指導を通して行き詰まっている生徒にヒントを与えるようにする。</p>	
まとめ	<p>■本時のまとめ</p> <p>□明治時代以降に，急速な工業化が進んだ一方で，環境への配慮がなされな</p>	10	<p>●九州地方における環境問題や環境保全について，産業や人々</p>	<p>プリント「水俣市</p>

<p>かったことなどが背景となって環境汚染が進んだこと，市と住民が協働でゴミの分別などの環境保全に向けた取組を徹底的に行ったことなどを理解する。 □まとめを書く。本時の授業を通してわかったことや気付いたことをノートに書く。(次時までの宿題)</p>	<p>の生活等と関連付けて考察しようとしていたか。 〔(2) - イ〕 ●九州地方における環境問題や環境保全に対する取組に対して関心をもとうとしていたか。 〔(1) - イ〕</p>	<p>のあゆみ 10 のポイント， 「水俣病発生の背景」</p>
--	---	--

(4) 板書計画

<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> </div> <p>北九州市（洞海湾，上空）の写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> </div> <p>【学習課題】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>水俣市を例に環境汚染が進んだ背景と環境が改善された要因を考えよう。</p> </div>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 15%;">1 班</td> <td style="width: 15%;">2 班</td> <td style="width: 15%;">3 班</td> <td style="width: 15%;">4 班</td> <td style="width: 15%;">5 班</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">ホワイト ボード</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【まとめ】</p> <p>[背景] 急速な工業化→環境保全を考えなかった。 [要因] エコタウンをつくり，市と市民が協働して環境保全に力を入れてきた。</p> </div>	1 班	2 班	3 班	4 班	5 班
1 班	2 班	3 班	4 班	5 班		

(5) 参考資料

「水俣市のあゆみ」・・・水俣市ホームページ(<http://www.city.minamata.lg.jp/>)を参照し，千葉が作成した。(平成 27 年 5 月 24 日閲覧)